



風は水面をゆらす万華鏡

光のかけら拾い集めてふりかえり、
風は水面をゆらす万華鏡。

組み立てて、風の行方を知る。

歩んできた道程を一瞬のうちにとどめ、

風は私たちの頭上を吹いている。

町の明日へ、新しい時代へ。





遠賀町長
高山和幸

遠賀町は豊かな大地を育んできた遠賀川の河畔にある町です。交通の利便性にも恵まれた本町では豊かな自然を残しながら、北九州のベッドタウンとして発展してまいりました。そんな遠賀町が誇るものといえば、自然の恵みと人々の愛情で育てられた農産物。豊かな水と肥沃な土がおいしい米を実らせています。また、フキをはじめイチゴやトマトなども盛んに栽培されています。

遠賀町は施設の充実も自慢の一つです。ふれあいの里は大浴場や各種サークルなど特色のある活動ができる施設を併設し、宿泊も可能で、パン・麺、陶芸などが体験できるのも魅力です。また太陽光発電を採用した遠賀町立図書館は、だれでも利用しやすいように様々な工夫が凝らされています。その他にも各種スポーツで汗を流せる総合運動公園や古墳を自然のままに保存した島津丸山歴史自然公園、九州最大級の遠賀川漕艇場など、生きがいを実感できる施設がたくさんあります。

この町に生まれ育った人も、第二のふるさとである人も、みんな遠賀町を好きでいてほしい。そのために我々行政は「住んでいて良かった」と思われるようなまちづくりを日々邁進してまいります。

今後とも町政に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

Flying High

遥かなる
大海原への出帆

その営み、時空を越えて。

●今昔空撮比較 2

遠賀きのう・今日比べてみれば...

●今昔データ比較 4

「聞きたがり」

ふるさとの生活史。 6

遠賀川図鑑 10

あゆみ 遠賀町の年表 12

豊かな明日へ

「川筋文化」が実を結ぶ。

●遠賀未来図 18

●行政区 19

おもしろ遠賀学

コラム・de・ONGA 20

目次

その営み、

広大な遠賀平野に明日の夢を描き、
川辺に水田に綴^{つづ}ってきた私たちの暮らし。
その営みはやがて町となり、
歴史を重ねました。
伸びやかな景観を保ちつつ、
発展の礎^{いしずえ}を築いてきた遠賀町の姿を、
現在からさかのぼって比べてみましょう。

新築の遠賀町庁舎（昭和47年4月移築・落成）が見えます。昭和40年代には遠賀中学校や島門小学校、浅木小学校が相次いで木造から防音校舎に生まれ変わりました。

「さよならSL」——国鉄室木線の専用機関車が多くの人々に惜しまれつつ姿を消したのは昭和49年1月。その年の12月には国道3号線遠賀バイパスが開通しました。

都市計画用途地域の指定を受け、「田園都市構想」のもと、新しい住宅団地の整備が始まったのもこのころです。

昭和
40年代

時空を超えて。

北九州市のベッドタウンとして人口が急増し、広渡小学校(昭和52年)、遠賀南中学校(昭和59年)が新しく開校しました。また遠賀勤労者体育センターや武道場、弓道場の整備が進み、昭和58年の馬頭岳ハイキングコース、翌年には遠賀総合運動公園グラウンド完成と、町民の健康づくりやスポーツ振興に向けたさまざまな施設が誕生します。

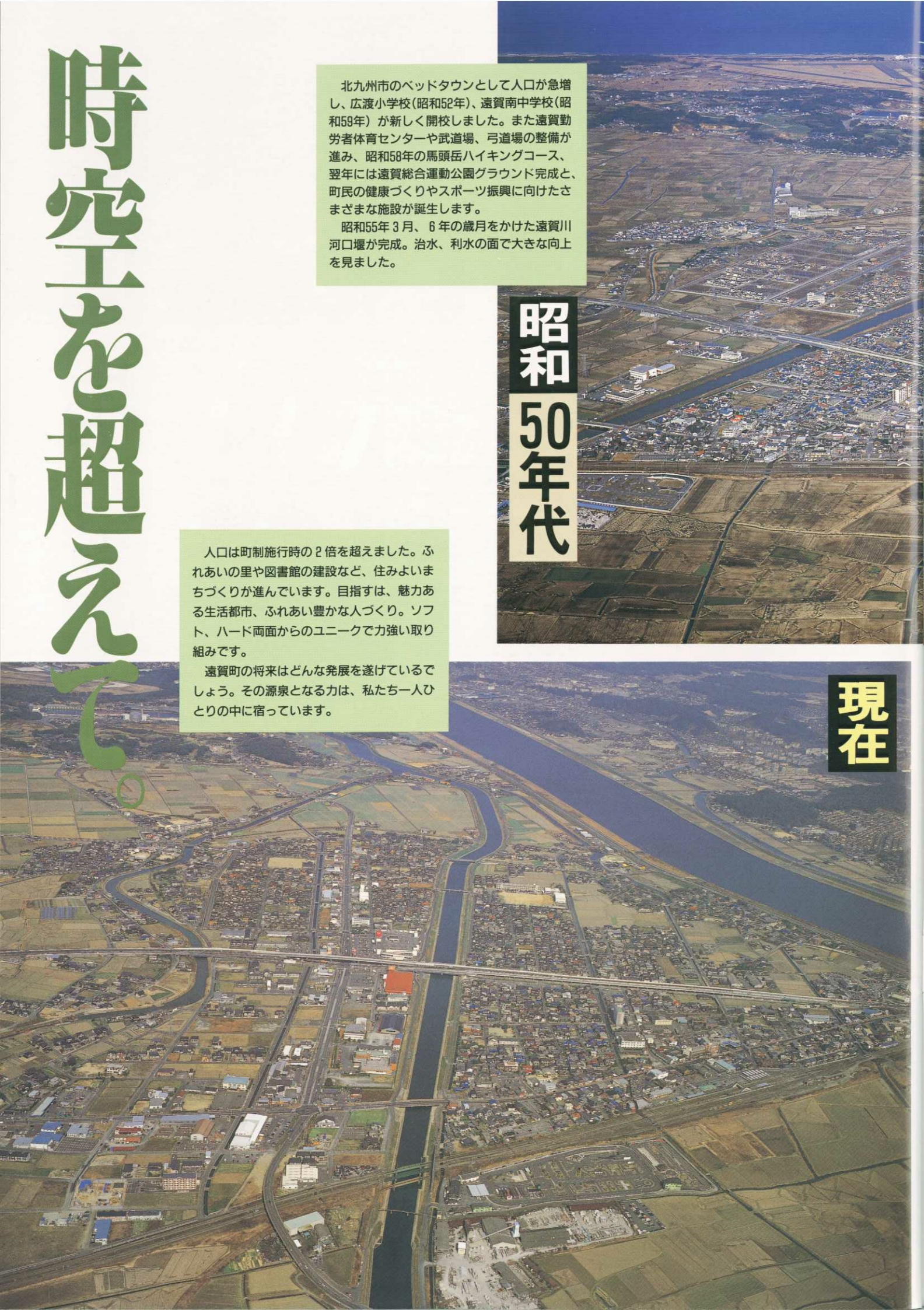
昭和55年3月、6年の歳月をかけた遠賀川河口堰が完成。治水、利水の面で大きな向上を見ました。

人口は町制施行時の2倍を超えました。ふれあいの里や図書館の建設など、住みよいまちづくりが進んでいます。目指すは、魅力ある生活都市、ふれあい豊かな人づくり。ソフト、ハード両面からのユニークで力強い取り組みです。

遠賀町の将来はどんな発展を遂げているでしょう。その源泉となる力は、私たち一人ひとりの中に宿っています。

昭和
50年代

現在

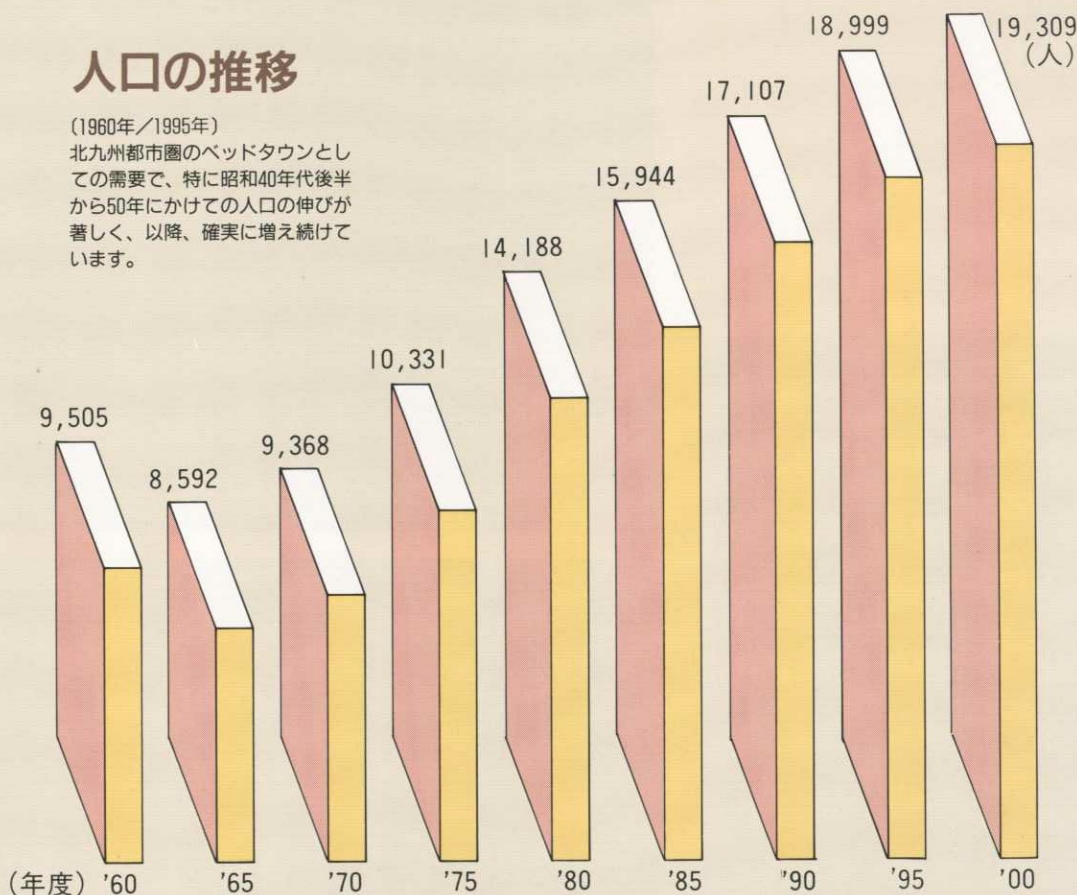


遠賀

きのう・今日

人口の推移

(1960年/1995年)
北九州都市圏のベッドタウンとしての需要で、特に昭和40年代後半から50年にかけての人口の伸びが著しく、以降、確実に増え続けています。



比
べ
て
み
れ
ば
…
。

水道の普及状況

かつては各地区の2~3の共同井戸があって主婦たちの社交の場でもありました。しかし井戸水は疫病の原因ともなることから、昭和30年に遠賀村簡易水道を企画、37年には鞍手町、遠賀町共同の組合となり、47年に遠賀町の水道事業は中間市水道に合併されました。この取り組みで、給水人口は確実に増加しています。

遠賀川

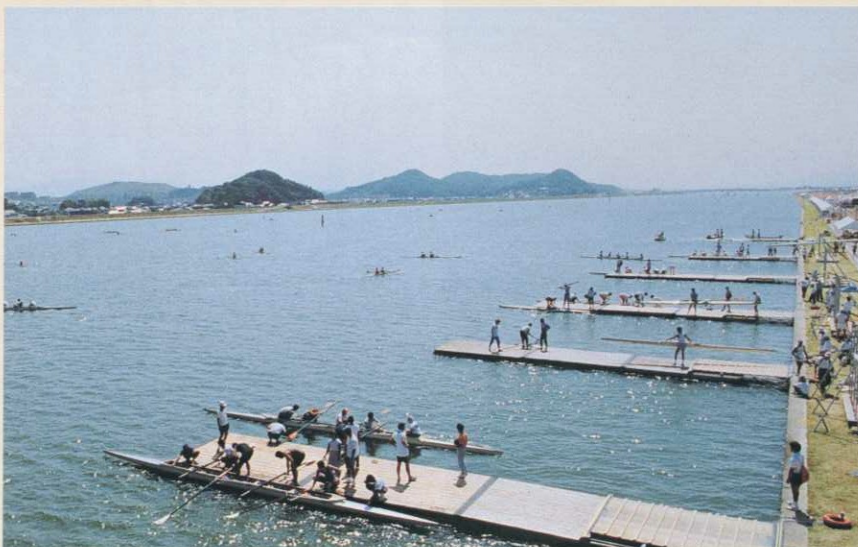
遠賀川は明治末期の第1期改修工事のあと、昭和に入って何回も洪水が起り、堤防が決壊しました。昭和20年に国直轄改修河川の指定を受け、現在までに少なからぬ改修が施されています。





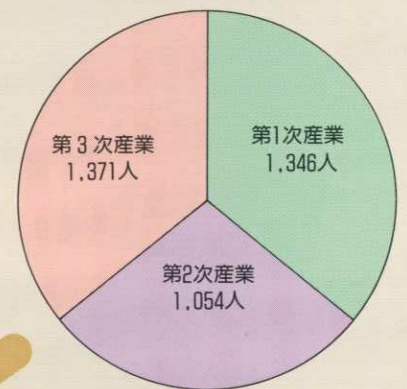
遠賀川駅

明治40年の開設以来、町民の足として親しまれています。駅舎も生まれ変わりました。昭和46年、1日の乗降客は2,373人。平成12年では、約7,700人です。

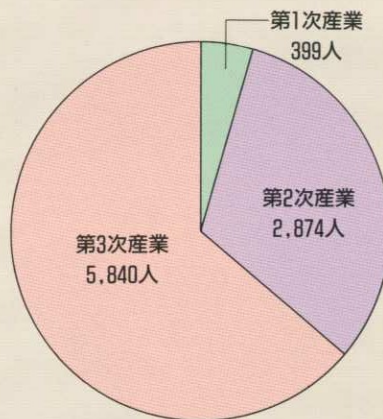


産業就業人口

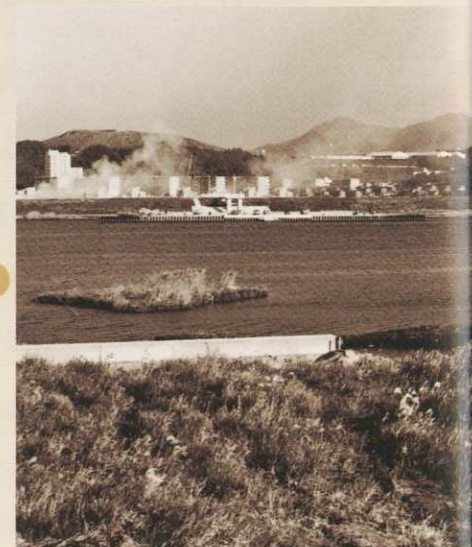
(1965年/2000年)
昭和40年当時は各産業とも平均した就業状態ですが、現在は、第3次産業に就く人が圧倒的に多く、第1次産業のおよそ15倍です。



昭和40年 国勢調査



平成12年 国勢調査



聞きがたり

ふるさとの

生活史。

農作業

早く稲刈りをかたづけ、畑の白菜にかからんらん、休む暇なかったですな。ラジオのない時代、じいさんからよく聞かされたもんです。「秋の夕焼けには鎌を研げ、明日はいい天気だから稲刈りの準備を怠るな」。昔はカンが頼りだったとです。

3町(3ヘクタール)くらい作りよりでしたが、田植えの時期には、筑後さん”言うて、筑後のほうから手伝いに来ました。前の日にこっちから何人か行って契約して、あの人たちは田植えだけでおおかた1年分のお金くらい稼ぎよったでしょうな。そして終戦後は、天草から来てもらうようになったんです。そのころ、鎌で1日に1反(10アール)稲刈りきいたらよか男だったです(笑)。しかし、これは若いもんにはできんこと。

考えてみると気候が違いましたな。そのころは朝、霜柱を踏んで稲刈りに行きよったとです。11月の3日、明治節のころ。今は霜なんて降らんですもんね。
——畑生平一さん(明治45年生まれ)



霜柱ふんで稲刈りへ。
一日に一人で1反、刈れたらよか男。



鰻かき

健康と趣味をかねて鰻かき。
遠賀川の様子もずいぶん変わりました。



若い時からやっとなし、道具もありますしね。それに健康のためですわい。家のもんは危ないけん行くな、行くな言うけど、好きじゃから。今でも月に3回くらいは出かけます。うなぎは3月ごろから、雨が降ったり天気が悪かったりすると、ずうっと川を上ってきます。秋の彼岸ごろまでね。それを過ぎるとじわじわと下って海に出ます。昔は、中間の池（新日鉄の取水場）まで舟で槽を漕いで行きよりました。

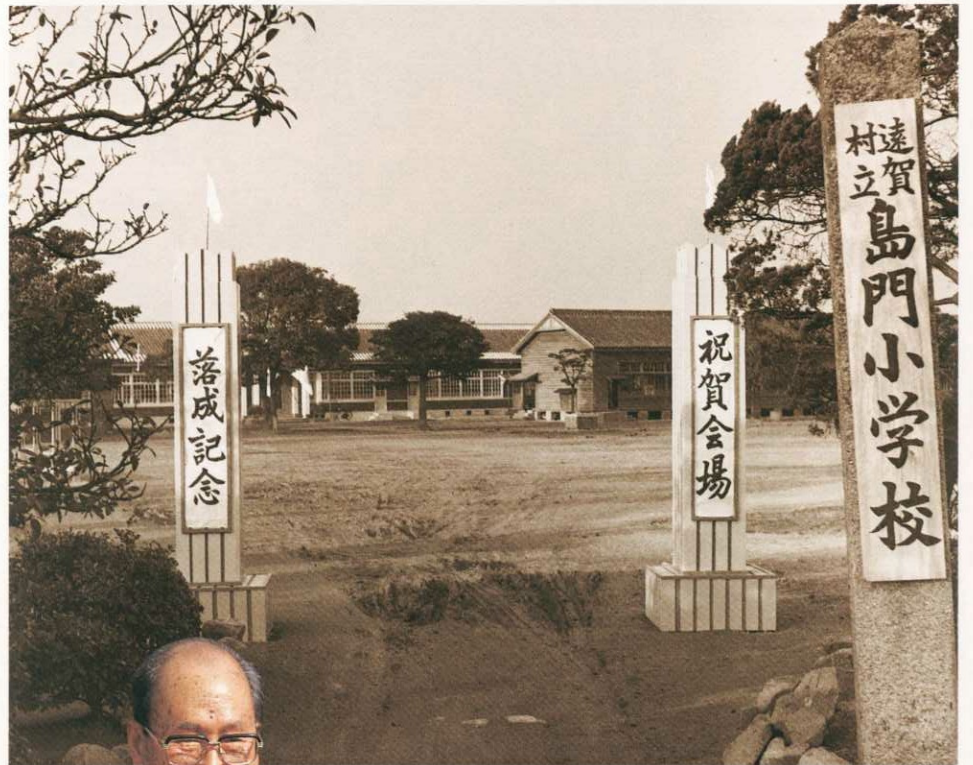
これだけ川が広くても、うなぎのおる所はちよつとですけん。上からついで「あ、こは潜つとるな」とか分かります。とれる日は1日に30から50匹くらい。それでも昔ほどにはとれんです。

遠賀川は、前はもつと小さくて水に入つて渡れました。河川が良くなかったから、大水の出るたびにあち曲がりこち曲がりして、それが改修工事で立派になったですわ。それまでは今の遠賀川の真ん中まで島津の土地があつたんです。田圃が。

——矢野智さん（明治40年生まれ・故人）



小学校



羽織袴の先生と、
ケンカ相手になつかしい。

私は小学校へは大正11年の入学です。島門小学校です。卒業は昭和3年。そして昭和35年、私が44歳のとき、校長として赴任したのも島門小学校でした。入学当時は男女一緒に、確か地区別のクラス編成だったと思います。1学年2クラス、1クラス35、6人くらいだったかな。

紀元節や新年の儀式など、今という祭日にも登校しました。先生方の正装は羽織袴。そのころ私は、なぜか赤いゴム靴を履いていました。『マーちゃん靴』(笑)と呼ばれたのも懐かしい思い出です。普段も袴姿の先生が多かったから、袴にもぐったり、顔を出したりしてよく遊んでいました。遊びといえば、『みやどめ』『どうや』『ねんぼう』。竹馬は当時『サギあし』といって、学校の屋根から足を渡してやってましたよ。切り出した竹をそのまま使って作るんですわ。

昭和12年、浅木小学校から私の教員生活が始まります。当時の初任給は46円。昔広上下が30円、米1俵4円の時代でした。

——柴田正生さん（大正5年生まれ・故人）



おくんち



遠賀村の時は大、集落ごとに、幕やら舞台やら持ち回りでやりよったな。広渡の人が若松行ったり若松の人が広渡行ったり。親戚の家庭に一晚でも泊まって和気あいあいとな、それが一年の楽しみみたい。その時の酒の肴はだいたいレンコンやな。

広渡は10月17日の晩から18日、お宮で舞踊が多かった。青年団の演芸会、子供の相撲、それから大人の相撲やったな。島津や浅木にはうまい人がおつてな、その人が芸を教えよった。国定忠治とか赤木の子守歌とか、そらうまかつたな。

そのころの楽しみいうたら、まずテレビがない。映画館に行くくらいのもんやな。昭和17年ごろに八幡東宝映画劇場というのができた。32、33年には中間に映画館が6つぐらいあったな。私は小学校6年の時から行きよったが、先生に見つかってくさ(笑)。そのころは『蛇姫様』やら『白蘭の歌』いうのをやりよった。

——水正真吉さん(大正15年生まれ)



遊びのない時代、
一年の大きな楽しみだった。



長屋にはふれあいがありました。
楽しい思い出ばかりです。



——衛藤正晴さん(大正7年生まれ・故人)

炭鉱

復員後の昭和25年の4月に炭鉱に就職しました。製鉄も考えたんですが、炭鉱は食料事情が非常によかったです。当時は食べ物不足でいて、米の配給も満足のものじゃなかった。そういう時に炭鉱は、1日入れば加配米という制度や酒の配給もあったんです。一般の人が考えるように、鉱内の作業というのはそんなにひどいもんじゃありません。8時間労働と決まっていたしね。当時、新入三菱鉱業所には6000人くらいいました。

29年に配置転換で7鉱から鞍手に来て、37年に閉山するまでいました。ちょうど石炭の需要が下がり始めていたのと、産炭すると遠賀川の鉄橋が陥没する恐れがある、また石炭の質がよくないという検査の結果が出て、閉山になったわけです。

それまではこの住宅だけでも6軒長屋、8軒長屋と相当ありましたよ。あいさつはもちろん、調理の火の貸し借り。当時は七輪でしたから、正月には町内ごとに餅つき。ふれあいがありましたね。そういう面では今の社会よりよかったです。

瓦づくり

出荷は千枚単位。
夫婦二人で朝から晩まで
働きました。



田圃たほの土をはいで、下のネバいとこを取るんですよ。昭和2、30年代はまだ溝の改修とかができんもんやけ、田圃の水の乗りが悪い。農家の人も土を取ってもらえば、田に水を上げやすかったわけです。12月から翌年の3月、4月ごろまでかかりよかったですねえ。

1反(10アール)で、私たちが1年間ゆっくり使えるくらい土ができます。そうやって土づくりをした後、型に流しこんで、ある程度乾いたら圧力かけて瓦の型に切って外に干して、それからまた1枚1枚、乾燥させて、やっと釜に入れるんです。それまでがなかなか。瓦の形を作るのを「荒地」といって、3せ置きに4枚ずつ千枚、広場に並べていくわけです。二人で朝の5時ごろからやって午後3時まで。それから次の日の土の用意にかかると、これが1日の仕事です。昭和50年ごろから名古屋とか四国から安い瓦が入ってきた。長持ちするかどうかはわからないが、それに押されたのと、煤煙公害。釜に入ると真っ黒の煙が出るんです。これがよくない。時代の流れやな。10何軒あったのがだんだん少なくなつて。私達にはやめました。

—金崎清春さん(大正13年生まれ)



室木線・芦屋線

昭和9年、19歳の駅手から始まって、47年3月に退職しました。

45年ごろから各主要線区は電車やディーゼルに代わり始めたんです。そこで退職してすぐ、室木線に関係のあった機関車を探してみようと思つてね。で、譲り受けたのが今、公園にある「78626」という機関車。おかげで年に2、3回はOBに招集かけて機関車、掃除に行きよる。子どもたちが砂利やら砂を持って上がるもんだから、ちょうど1輪車2台ぶんくらいあるよ(笑)。

機関車というヤツは今でも何にもならんものの、あの当時は誇りでした。海老津には国鉄のOBが2、300人おられます。

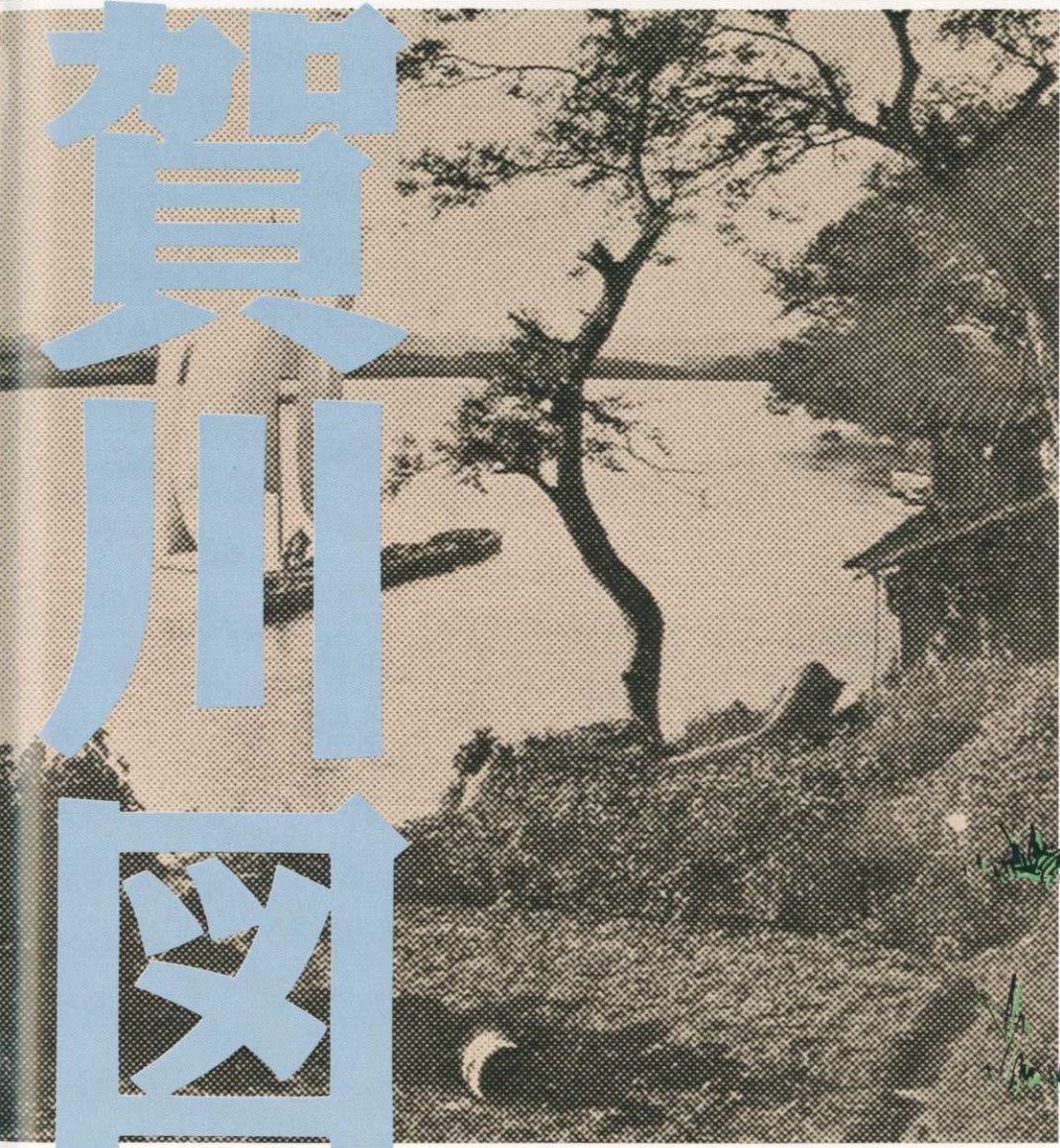
大正4年にできた芦屋線は今の役場の下を通つて、鉄橋じゃなしに枕木で組んだ木橋がかつちよつた。それが昭和7年に廃止になって、それからうつつと汽車というものはなかった。昭和22年に古領車がきて、「ここに鉄道があったはずだ、作れ」というんで、国鉄が突貫工事をしたのは、今の鹿児島本線の西川鉄橋を渡つて、こつち。本線からポイントつけて半径400mの曲線ですうつとひとまわり。芦屋より迂回して旧芦屋線に接続したわけです。—松本信さん(大正5年生まれ・故人)



姿を消していく機関車を、
何とかして保存したかった。



遠賀川国鑑



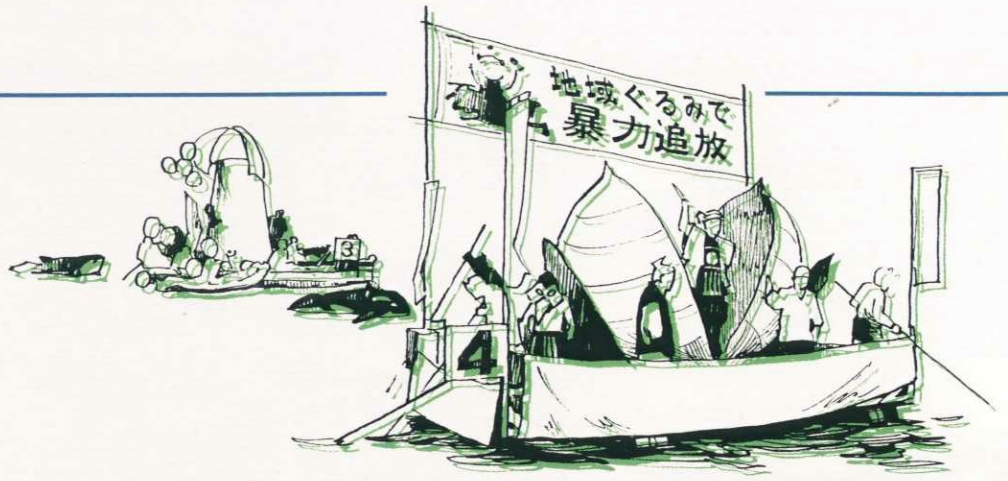
水車

遠賀川の大改修工事は明治39年から始まります。左岸の堤防の内側に、塩田堰から島津まで神田川の水路が移設されました。ところが大正時代に入ると、遠賀川の流れがよくなったためか塩田堰の水位が下がり、取水が困難になりました。そのため、島津及び広渡地区では夏季灌漑に、昼夜100余の水車を踏んで用水を汲み上げました。

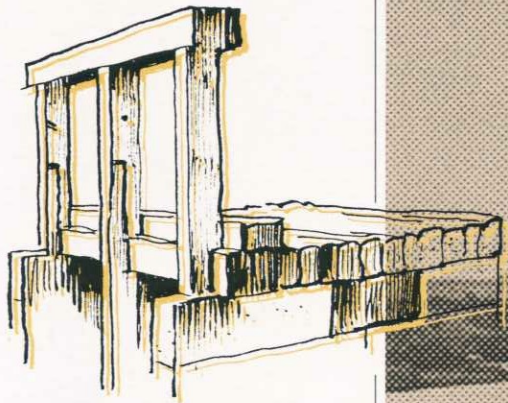
葦

遠賀川といえば葦を思い浮かべる方も少なくないでしょう。この葦は古くからいろいろなものに利用されてきました。まず、牛馬の飼料として。終戦後は、ノリを張りつけて乾燥させるときに使う「みす」の材料として、島原方面へも出荷されました。また、よしずの材料としてもおなじみです。





豊かな水をたたえた遠賀川は、
ずっと私たちの暮らしを映してきました。
季節を迎え、季節を送る
時間をさかのぼり、
岸辺に立つる川のカレンダー。



塩田堰

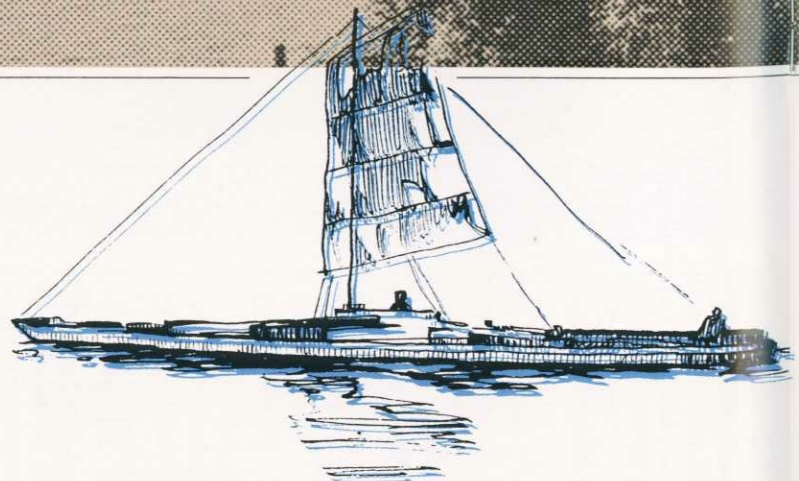
江戸時代、西川以西では新田開発、耕地拡張が積極的に行われ、利水事業も進められました。寛政のころ下流地域の水不足を解消するため塩田から広渡・島津地区へ水

路が造られました。これが神田川の始まり。塩田堰はその取水口とされます。明治後半には川底に杭を打ち、竹などで柵を作り砂利で押さえる砂利堰が築かれました。いずれも遠賀川が大改修される前のことでした。

五平太舟

遠賀川は流れが穏やかで、古くから上流まで水路が開けていた。流域の各地で水運を利用した石炭の採掘が始まり、明治から大正にかけて国内最大の産炭地になりました。五平太舟はその輸送に活躍した帆かけ舟です。

明治の後半には鉄道による送炭も増加しますが、五平太舟で若松芦屋に運ばれる石炭も年間100万トンにのぼり、遠賀川は石炭輸送の大動脈として大きな役割を果たしていました。
やがて舟による石炭輸送が鉄道にとって代わると、五平太舟は人や馬を運ぶようになり、橋の開通で姿を消した。



あゆみ

遠賀町の年表



遠賀川を上る往時の五平太船



柴田直敏翁記念碑除幕式



大正13年
遠賀川橋完成

明治

- 7年1月 鬼津、広渡、今陸（今古賀）浅木の四小学校を開設
- 7年12月 浅木小学校を別府尋常小学校と改称
- 17年7月 島門村役場を鬼津に設置（鬼津、島津、広渡、今古賀、尾崎、別府、戸切の7ヶ村を管轄）
- 19年4月 鬼津小学簡易科、広渡小学簡易科と改称、今陸小学校を廃校
- 19年7月 大洪水あり、夏に早越あり
- 22年5月 町村制実施の際に、島門村の内、戸切を岡県村（岡垣町）に分属させる。
- 22年6月 町村制実施により、木守、虫生津、下底井野（浅木）に別府の内、高家、花園、尾倉を加えて浅木村を編成
- 22年6月 浅木村役場を花園に設置
- 22年 遠賀川鉄橋半線完成
- 22年 別府尋常小学校を浅木尋常小学校と改める
- 23年11月 九州鉄道会社により遠賀川駅開業
- 24年 大洪水、被害全村に及ぶ
- 25年4月 鬼津尋常小学校、広渡尋常小学校と改称
- 25年12月 島門村役場を広渡に移転
- 26年1月 鬼津尋常小学校を廃し広渡尋常小学校に合併
- 26年 早越あり
- 27年 早越あり
- 29年 浅木村農会、島門村農会創立される
- 35年 島門村隔離室及び火葬場を鬼津に新設
- 35年6月 別府運角に浅木村隔離室を新設
- 35年9月 広渡尋常小学校を島門尋常小学校と改称
- 35年9月 老良尋常小学校を創立（通学区老良）
- 38年 大洪水あり
- 40年3月 遠賀川駅公衆電報取扱開始
- 40年4月 島門、浅木両小学校に高等科を併置
- 40年5月 遠賀川駅舎、旧停車場から現在位置に移転
- 41年2月 遠賀川大改修工事開始（国営事業工費 4,395,000円、人夫延15万人）
- 41年6月 至木線開業
- 42年11月 遠賀川一赤間重複線開通
- 43年 島門、浅木両小学校に実業補習学校を併置する
- 44年4月 遠賀川郵便局が開局する

大正

- 4年4月 遠賀川駅跨線橋落成
- 4年 芦屋軽便鉄道株式会社創立

世界と日本

- 2 ● 版籍奉還
- 人力車、パン、巻きたバコ、アイスクリーム発売
- 10 ● 西南戦争勃発
- 21 ● 市制・町村制公布
- 22 ● 大日本帝国憲法発布
- 24 ● 足尾鉬毒事件
- 27 ● 8 日清戦争勃発
- 28 ● 下関条約調印
- 37 ● 2 日露戦争勃発
- 38 ● 5 日海軍海戦
- 9 ● ポーツマス条約成立する
- 日露講話条約調印
- シベリア鉄道完成
- 3 ● 8 第一次世界大戦勃発
- 7 ● 11 第一次世界大戦終結
- 9 ● 国際連盟発足
- 45 ● オリンピック初参加



昭和4年
老良小学校運動会

昭和28年6月
遠賀川堤防決壊大洪水
遠賀村大被害を受ける



昭和

- 12年2月 ● 島門村公設消防組組織
- 13年 ● 遠賀川橋完成
- 15年6月 ● 実業補習学校に青年訓練所を併設し、島門、浅木両小学校を公民学校と改称し併置する
- 2年 ● 乗合自動車（大和バス）遠賀川―木月間開通
- 3年 ● 浅木村公設消防組組織
- 3年4月 ● 浅木小学校に実科女学校を併置
- 4年4月 ● 浅木村と島門村合併、遠賀村誕生
- 4年 ● 老良区を浅木小学校の通学区とする
- 4年 ● 早越あり
- 5年 ● 神田川農業用水開通
- 6年6月 ● 遠賀村役場庁舎完成
- 6年 ● 国道3号線完成
- 7年 ● 芦屋軽便鉄道事業不振のため廃止
- 8年 ● 遠賀村産業組合を設立
- 8年 ● 失業対策事業として西川改修工事始まる
- 9年6月 ● 大早越、寿命堰に掛け、及び塩田堰の築堤
- 10年 ● 虫生津に金丸鉱業所開鉱
- 10年 ● 大降雨のため稲苗腐蝕し、宮崎、鹿児島から苗を移入す
- 11年 ● 農林省の経済更生指定を受け、全村学校を開校
- 13年4月 ● 合村10周年記念式を行う
- 13年5月 ● 農村振興道路建設
- 14年 ● 大早越あり
- 15年 ● 金丸鉱業所にかわって東邦炭坑が経営
- 16年4月 ● 国民学校令により、島門、浅木両小学校を国民学校と改称
- 16年 ● 大降雨、役場庁舎の基礎を上げる
- 19年 ● 農会並びに産業組合をもつて農業会を設立
- 19年 ● 東邦炭坑、櫛三菱鉱業に吸収される
- 21年6月 ● 遠賀川駅に特別待合室（RTO）開設
- 22年3月 ● 国鉄芦屋線開通（占領軍用）
- 22年4月 ● 遠賀中学校開校（浅木校に3学級、島門校に4学級を分散設置生徒数20名）
- 22年4月 ● 浅木、島門両校の高等科を廃し、小学校と改称
- 22年12月 ● 遠賀川駅全面改築
- 23年9月 ● 遠賀中学校校舎第1期工事竣工（8教室）
- 23年 ● 農業協同組合法により遠賀村農業協同組合を設立
- 23年 ● 遠賀川駅、急行列車停車駅となる
- 25年10月 ● 遠賀川保育園開園
- 26年8月 ● 西川堤防決壊
- 27年12月 ● 島門、浅木両小学校改築
- 28年6月 ● 遠賀川堤防決壊大洪水 遠賀村大被害を受ける
- 29年3月 ● 遠賀川郵便局舎、役場横から農協前に移転
- 29年12月 ● 合村25周年記念式
- 30年 ● 遠賀村公民館別館落成
- 30年2月 ● 遠賀村簡易水道浄水場完成



昭和4年4月
浅木村と島門村合併、
遠賀村誕生

昭和6年6月
遠賀村役場庁舎完成

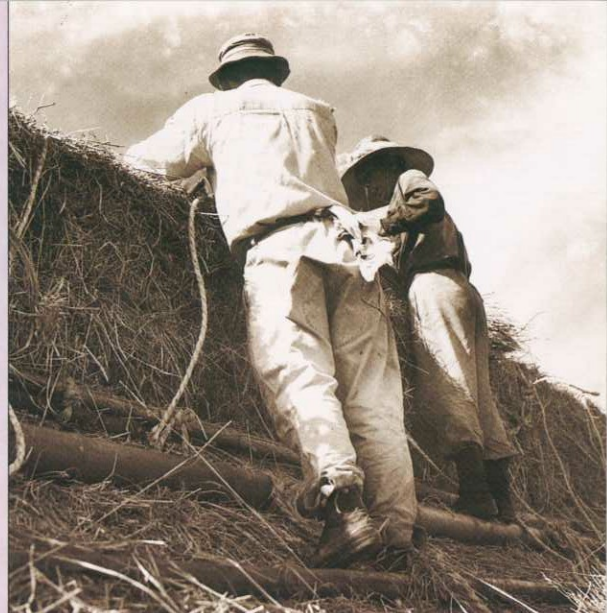


- 10 ● ワシントン会議
- 12 ● 9 ● 関東大震災
- 14 ● ● 治安維持法、普通選挙法公布
- ラジオ放送開始
- 3 ● ● 最初の普通選挙実施
- 4 ● ● 世界大恐慌
- 6 ● 9 ● 満州事変
- 7 ● ● 上海事変
- 7 ● 9 ● 満州国成立
- 8 ● ● 国際連盟脱退
- 10 ● ● 第1回芥川賞・直木賞
- 11 ● 2 ● 26事件
- 12 ● ● 蘆溝橋事件
- 13 ● ● 国家総動員法公布
- 15 ● 9 ● 日独伊三国同盟
- 16 ● 12 ● 太平洋戦争勃発
- 20 ● 8 ● ボツダム宣言を受諾（終戦）
- 21 ● 11 ● 日本国憲法公布
- 24 ● 11 ● 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞
- 25 ● 6 ● 朝鮮戦争勃発
- 26 ● 9 ● サンフランシスコ対日講和条約調印
- 9 ● 日米安全保障条約調印
- 28 ● 2 ● テレビ放送開始
- 12 ● 奄美群島本土復帰
- 29 ● 7 ● 自衛隊発足
- 30 ● 10 ● 社会党統一大会
- 11 ● 自由民主党結成

昭和39年ごろの遠賀中学校



昭和27年12月
島門、浅木両小学校改築



葺き替え屋根の葺きかえ作業

昭和

- 30年3月 遠賀川大橋落成(巾員6m長37m工事費164,091,000円)
- 30年4月 山びこ保育園開園
- 31年 農山漁村振興計画特別指定地域となる
- 32年4月 南部保育園開園
- 32年 青年研修所開設
- 33年3月 遠賀中学校体育館落成
- 35年8月 養老施設「遠賀静光園」設置51名収容
- 35年9月 遠賀川駅、特別待合室閉鎖
- 36年6月 芦屋鉄道廃止
- 36年7月 九州初の第一回航空防除実施(対象面積800ha)
- 36年 国鉄電車開通
- 37年2月 三菱鉱業㈱鞍手炭坑閉山
- 37年 西川改修工事(浚渫)始まる
- 37年12月 炭坑離職者緊急就労対策事業を起し山手線道路改良工事着手
- 38年8月 島門小学校防音校舎建築始まる
- 38年10月 遠賀川駅前信号機設置
- 38年10月 三菱鉱業㈱新入鉱業所閉山
- 38年10月 産成地事業団、虫生津団地造成起工
- 39年4月 遠賀町制施行
- 39年4月 町全域に亘る国土調査事業開始
- 39年8月 遠賀町戦没者慰霊塔落成
- 40年3月 島門小学校防音校舎落成
- 40年8月 遠賀中学校防音校舎建築始まる
- 40年10月 第一回町民体育大会始まる
- 41年2月 農村集団電話開設(37戸加入)
- 41年2月 町道友田線開通
- 41年3月 有線放送施設完成(島津他9地区)
- 41年8月 町北部(島津、若松、鬼津、尾崎地区)水道布設事業開始
- 41年9月 遠賀中学校プール完成
- 41年12月 遠賀町北部地区西鉄バス開通(折尾―海老津間)
- 42年4月 遠賀中学校防音校舎落成
- 42年4月 遠賀川駅前団地造成開始(民営)
- 42年8月 浅木小学校防音校舎建築始まる
- 42年9月 重広線開通
- 42年12月 島門小学校講堂落成
- 43年3月 西川渇水防除事業広渡排水機場完成
- 43年3月 町北部(尾崎、鬼津)上水道事業開始
- 43年3月 県道直方―芦屋線立体交差完成
- 43年5月 遠賀郡農事センター―広渡に落成
- 44年3月 浅木小学校防音校舎落成
- 44年4月 町道山手線舗装事業開始
- 44年8月 遠賀川自動電話交換局完成
- 45年3月 旧所に「はこぼし」完成
- 45年10月 遠賀中学校講堂(改築)落成
- 46年2月 島門小学校プール完成



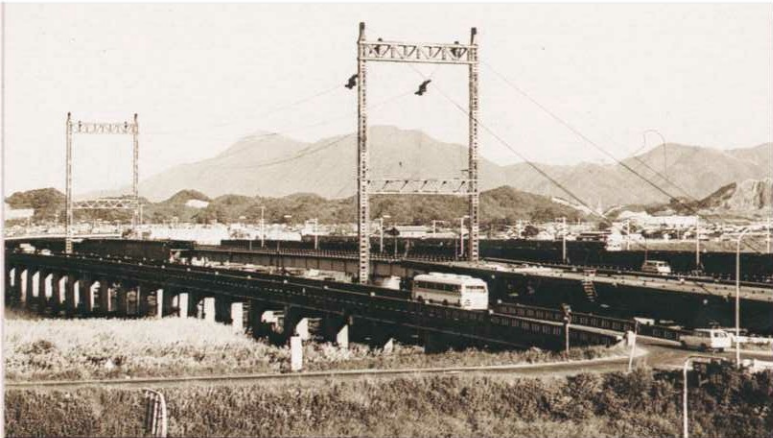
昭和40年3月
島門小学校防音校舎落成



航空防除

- 46・8 ●ドルショック
- 45・3 ●日本万国博覧会開幕
- 3 ●日航機「よと号」ハイジャック
- 11 ●三島由紀夫割腹自殺事件
- 44・7 ●アポロ11号が月面着陸
- 43・10 ●川端康成ノーベル文学賞受賞
- 12 ●東京府中市で3億円事件
- 42・6 ●第3次中東戦争勃発
- 41・3 ●総人口1億人を超える
- 8 ●中国、プロレタリア文化大革命
- 40・2 ●アメリカ・ベトナムで北爆開始
- 10 ●東京オリンピック開幕
- 39・10 ●東海道新幹線開業
- 11 ●ケネディ大統領暗殺
- 38・3 ●吉展ちゃん誘拐事件
- 37・8 ●堀江謙一、太平洋横断に成功
- 36・4 ●ソ連有人宇宙船打ち上げ成功
- 35・12 ●池田内閣、所得倍増計画を決定
- 34・4 ●皇太子殿下御成婚
- 9 ●伊勢湾台風来襲
- 33・8 ●インスタントラーメン発売
- 12 ●東京タワー完成
- 32・10 ●ソ連、人工衛星打ち上げ成功

世界と日本



昭和49年12月
国道3号線遠賀バイパス片側二車線開通



昭和47年11月
献穀米納(畑生半一氏)



昭和49年1月
国鉄室木線専用機関車SL姿消す

- 46年3月 鬼津地区学習等供用施設(公民館)落成
- 46年4月 遠賀農芸高等学校上別府地区に移転、授業開始
- 46年5月 国道3号線遠賀バイパス建設開始
- 46年5月 遠賀町水道事業中間市水道に併合
- 46年6月 遠賀郡農協本所庁舎落成
- 46年6月 上別府花園ポンプ(移設)完成
- 47年3月 尾崎地区学習等供用施設(公民館)落成
- 47年3月 県道宮田、遠賀線立体交差完成
- 47年4月 遠賀町章決まる
- 47年4月 遠賀町庁舎(移築)落成
- 47年4月 遠賀郡消防署落成
- 47年11月 献穀米上納(畑生半一氏)
- 48年5月 浅木小学校プール完成
- 48年5月 鹿兒島本線の歩行者専用跨線橋「あけぼの橋」完成
- 48年6月 虫生津排水ポンプ完成
- 48年6月 一市四力町火葬場(天生園)完成
- 48年11月 島津地区公民館落成
- 48年12月 都市計画用途地域の指定を受ける
- 49年1月 国鉄室木線専用機関車SL姿消す
- 49年5月 遠賀川郵便局(移築)落成
- 49年5月 老人憩家落成
- 49年6月 鞍手町・遠賀町水道組合解散
- 49年11月 町制施行10周年を記念して多彩な記念行事が行われる
- 49年12月 国道3号線遠賀バイパス片側二車線開通
- 50年3月 若松地区学習等供用施設(公民館)落成
- 50年9月 遠賀町中央公民館落成
- 51年1月 都市計画道路設計画決定
- 51年3月 木守集会所落成
- 51年7月 第1、第2道官橋完成
- 51年10月 遠賀町民俗資料館開館
- 51年12月 浅木簡易郵便局開局
- 52年4月 広渡小学校落成開校
- 52年4月 給食センター落成
- 52年4月 中学校学校給食開始
- 52年8月 広渡小学校プール完成
- 52年11月 遠賀町土地開発公社設立
- 53年1月 広渡小学校体育館落成
- 53年3月 別府集会所落成
- 53年7月 広渡小学校ナイター施設完成
- 53年11月 広渡地区学習等供用施設(公民館)落成
- 53年11月 今古賀地区学習等供用施設(公民館)落成
- 54年4月 浅木小学校校舎(増築)落成
- 54年4月 第1武道場落成
- 54年4月 西町町営住宅落成
- 54年4月 道官集会所落成



昭和50年9月
遠賀町中央公民館落成



昭和47年4月
遠賀町庁舎(移築)落成

- 53・5 ● 成田空港開港
- 8 ● 日中平和友好条約調印
- 52・9 ● 王貞治6号ホーム
- 51・7 ● ロッキード事件で田中角栄逮捕
- 50・3 ● 新幹線博多駅乗り入れ
- 7 ● 沖縄国際海洋博開幕
- 9 ● 天皇・皇后両陛下訪米
- 51・7 ● ロッキード事件で田中角栄逮捕
- 52・9 ● 王貞治6号ホーム
- 49・10 ● 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞
- 48・1 ● ベトナム和平協定調印
- 2 ● 円為替、変動相場制に移行
- 8 ● 金大中事件
- 10 ● 石油ショック
- 11 ● 関門橋開通
- 49・10 ● 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞
- 48・1 ● ベトナム和平協定調印
- 5 ● 沖縄復帰
- 9 ● 日中国交正常化
- 2 ● 札幌冬季オリンピック開催
- 47・1 ● グラム島で横井庄一発見

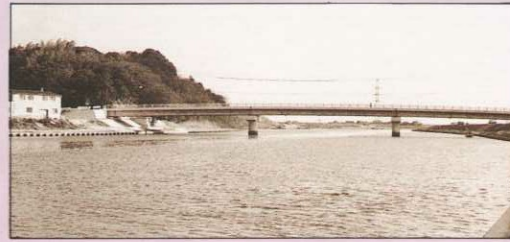
昭和59年8月26日
第1回水上カーニバルいかだ競争



落成



昭和55年3月
遠賀川河口堰(49年4月着工)完成



昭和57年7月
島津橋完成

昭和

- 54年4月 遠賀、中間地域広域行政事務組合発足
- 54年6月 町営遠賀公園オーブン
- 54年6月 島門小学校体育館(新築)落成
- 55年3月 遠賀中学校校舎(増築)落成
- 55年3月 遠賀川河口堰(昭和49年4月着工)完成
- 55年3月 木守地区学習等供用施設(公民館)落成
- 55年4月 遠賀静光園移転落成
- 55年4月 曲手排水機場完成
- 55年4月 前川排水機場完成
- 56年3月 浅木小学校体育館(新築)落成
- 56年3月 島門小学校校舎(増築)落成
- 56年3月 第2武道場開設
- 56年4月 休日急病センター落成(水巻町)
- 56年6月 尾倉配水池(上水道)完成
- 56年7月 遠賀勤労者体育センター落成
- 57年3月 老良地区公民館落成
- 57年7月 北九州市外局番統一化
- 57年7月 島津橋完成
- 57年11月 木守橋完成
- 58年5月 馬頭岳ハイキングコース完成
- 58年9月 遠賀町子どもまつり始まる
- 59年2月 遠賀総合運動公園グラウンド完成
- 59年3月 遠賀総合運動公園ナイター施設完成
- 59年4月 遠賀南中学校落成開校
- 59年4月 遠賀総合運動公園内テニス場完成
- 59年5月 第31回九州朝日レガッタ(1000mコース)開催
- 59年8月 水上カーニバル、いかだ競争始まる
- 59年8月 町制施行20周年記念式典開催
- 59年8月 遠賀南中学校体育館・武道場落成
- 59年10月 西鉄バス芦屋線路線変更(遠賀川駅→松ノ本經由芦屋行)
- 59年11月 弓道場落成
- 60年3月 室木線(明治41年6月30日開業)廃止、バス転換
- 60年5月 JR遠賀川駅東側2階建駐輪場完成
- 60年8月 馬頭岳展望台完成
- 60年11月 花園橋完成
- 61年3月 第37回福岡県植樹祭開催(町民の森)
- 61年5月 アスレチック公園(浅木)完成
- 61年6月 遠賀コミュニティセンター落成
- 61年6月 遠賀川漕艇場完成



昭和60年3月31日
室木線廃止→バス転換

昭和56年7月
遠賀勤労者体育センター落成



- 61 ● 1 ● スペースシャトル爆発事故
- 4 ● ノ連、チェルノブイリ原発事故
- 60 ● 3 ● つくば博開催
- 5 ● 男女雇用機会均等法成立
- 8 ● 日航ジャンボ機墜落事故
- 30 ● 9 ● 大韓航空機撃墜事件
- 3 ● グリコ社長誘拐事件
- 11 ● 新紙幣発行
- 57 ● 4 ● フォークランド諸島事件
- 6 ● 東北新幹線開業
- 11 ● 上越新幹線開業
- 56 ● 3 ● 神戸ポートピア81開幕
- 55 ● 9 ● イラン・イラク戦争勃発
- 54 ● 12 ● ソ連軍アフガニスタン侵入



平成2年9月9～12日
とびうめ国体(夏季大会)遠賀川



昭和61年6月1日
コミュニティーセンター



平成

- 61年12月 前川改修工完了記念碑建立
- 62年3月 中央公民館図書室新装オープン
- 62年3月 「茶の水」の井戸復元 ー上別府
- 62年7月 遠賀総合運動公園内パティオバットゴルフ場完成
- 63年4月 広報おんが (B5・A4)
- 63年4月 田園区誕生
- 63年11月 遠賀町民体育館落成
- 元年3月 鬼津堰(戸切川)完成
- 元年3月 尾崎土地改良事業(5・1旭)竣工
- 元年5月 「おんが地鶏」高齢者いきがい対策事業スタート
- 元年7月 国体リハール大会開催(遠賀川漕艇場)
- 元年9月 JRR遠賀川駅前通りに街灯設置
- 元年8月 遠賀総合運動公園内相撲場完成
- 元年11月 おんがふれあいの釣り大会始まる
- 元年11月 日本漕艇協会「B級コース」認定
- 2年1月 「女性モニター」制度スタート
- 2年4月 合併処理浄化槽設置補助制度スタート
- 2年5月 天神遺跡発掘調査開始
- 2年9月 とびうめ国体夏季大会開催(遠賀川漕艇場)
- 2年10月 第2期遠賀霊園竣工
- 3年2月 電算化スタート
- 3年5月 JRR遠賀川駅西側駐輪場完成
- 3年6月 西川橋架替のため取こわし(昭和4年6月)
- 3年9月 水上カーニバル町民レガッタ始まる
- 3年10月 老良農村広場完成
- 4年1月 遠賀中間広域行政事務組合新庁舎にて業務開始
- 4年6月 豊前坊経塚・豊前坊古墳発掘調査開始
- 4年9月 第3次遠賀町総合計画策定
- 4年9月 遠賀北部土地改良区設立・事業着工
- 4年9月 学校週5日制スタート
- 4年10月 聖人式始まる
- 5年2月 中間・西川橋完成
- 5年3月 出会いの架け橋完成
- 5年4月 校区変更(島門小学校区の一部が広渡小学校区に変更)
- 5年4月 田園区分区(田園北・田園南区)
- 6年3月 虫生津土地改良事業(5・5ヘクタール)竣工
- 6年4月 町制施行30周年
- 6年11月 ふれあいの里オープン
- 8年8月 島津丸山歴史自然公園オープン
- 8年7月 遠賀川下流域域公共下水道事業に着工
- 8年4月 東町・西町が合併して緑ヶ丘区になる
- 13年3月 虫生津住宅地区改良事業完成
- 13年7月 遠賀町立図書館オープン



町立図書館

おんがふれあいの釣り大会



- 62・4 ●国鉄分割・民営化
- 63・3 ●青函トンネル開通
- 4 ●瀬戸大橋開通
- 6 ●リクルート・スキヤンダルおこる
- 64・1 ●昭和天皇崩御

- 元・4 ●消費税制施行
- 6 ●中国で天安門事件
- 11 ●東西ベルリンの壁が消滅へ。東欧に自由化の嵐

- 2・8 ●イラクがクエートに侵攻
- 10 ●東西両ドイツ統一

- 3・6 ●長崎雲仙普賢岳火砕流の被害大

- 4・9 ●スペースシャトルで日本人初飛行

豊かな明日へ 川筋文化が実を結ぶ。

遠賀未来図

高齢化社会へいかに対応していくかは、今や日本が抱える大きな課題です。21世紀初頭には、国民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えることとなります。国勢調査によると遠賀町でも昭和55年に9・1%、平成2年は12・7%、平成12年には17・3%と、着実に高齢化が進行しています。

これまで高齢者の問題は、貧困、病気、障害に集約されるといわれてきましたが、医療や社会保障施策が進んだ現在では、医療費の増大、在宅福祉、生きがい対策、生涯学習、健康づくり、社会参加など新たな視点に立った対策が求められています。高齢化の進展は社会の制度や生活全般のあり方に大きく関わってくるものだけに、明るく活力に満ちた高齢者福祉行政の創出は、町政の最も重要な課題の一つです。

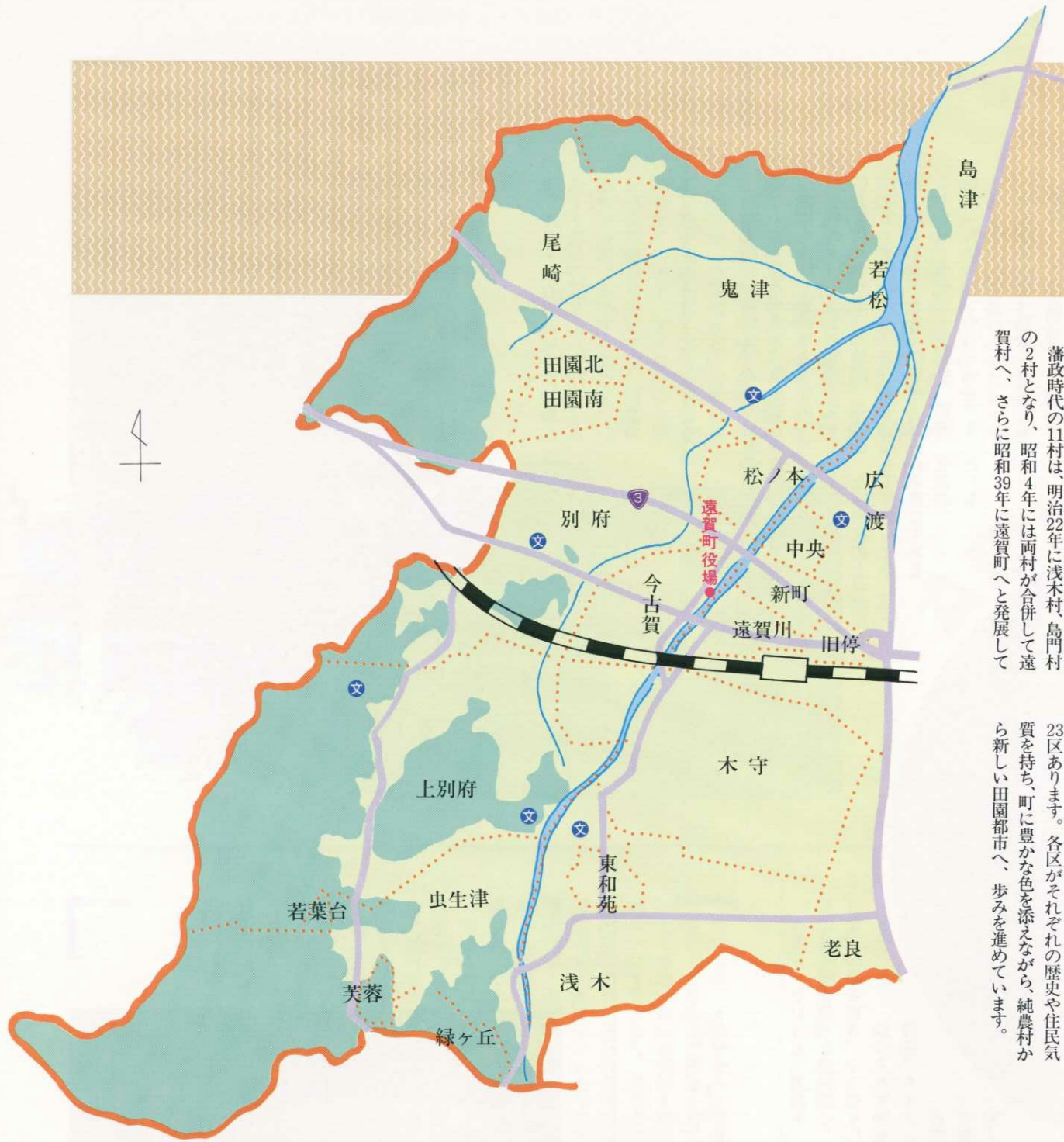
また障害者の福祉対策についても、国際障害者年を契機として、障害者の自立更生活動が各地で活発に行われており、これまでの援護施策とあわせ、障害者の自立や社会参加を促進するための諸条件を整えていかななくてはなりません。このような背景のもと、町では高齢者と障害者の健康、福祉をはじめ生涯学習、社会参加な



ど広範にわたる施策を行ってきました。新しい行政課題への対応は容易ではありませんが、今後も個人や家庭、地域、そして行政が一体となって、人にやさしいまちづくりを進めていきます。



ふれあいの里



行政区

藩政時代の11村は、明治22年に浅木村、島門村の2村となり、昭和4年には両村が合併して遠賀村へ、さらに昭和39年に遠賀町へと発展して

いきます。遠賀川とともに育んできた「川筋文化」を底流とし、村から町へと新しい生活の舞台を形成してきたのです。
現在の行政区は、藩政時代の11村を母体に23区あります。各区がそれぞれの歴史や住民氣質を持ち、町に豊かな色を添えながら、純農村から新しい田園都市へ、歩みを進めています。

歴代の町長・助役・収入役・正副議長

(※昭和39年4月1日町制施行以降)

歴代町長	歴代助役	歴代収入役	歴代議長	歴代副議長
1 小川 登一郎 (昭和38年5月1日)	有吉 寿 (昭和38年10月1日)	小川 泰 (昭和35年5月7日)	柴田 貴蔵 (昭和38年5月10日)	有吉 茂也 (昭和38年12月11日)
2 小川 登一郎 (昭和42年5月1日)	小川 泰 (昭和42年10月10日)	小川 泰 (昭和39年5月7日)	中山 包久 (昭和42年5月11日)	重広 新 (昭和42年5月11日)
3 柴田 貴蔵 (昭和46年4月25日)	柴田 武門 (昭和47年10月3日)	太田 悟 (昭和42年10月10日)	中山 包久 (昭和46年5月4日)	高崎 重徳 (昭和46年5月4日)
4 柴田 貴蔵 (昭和50年4月27日)	柴田 武門 (昭和51年10月3日)	山本 豊 (昭和46年10月21日)	高崎 重徳 (昭和48年4月20日)	柴田 涼 (昭和48年4月20日)
5 柴田 貴蔵 (昭和54年4月27日)	柴田 武門 (昭和55年10月3日)	三砂 貞利 (昭和51年3月26日)	中山 包久 (昭和50年5月8日)	木野 國繁 (昭和50年5月8日)
6 柴田 貴蔵 (昭和58年4月27日)	柴田 武門 (昭和59年10月3日)	石橋 清美 (昭和55年3月26日)	中山 包久 (昭和54年4月4日)	井口 時彦 (昭和54年4月4日)
7 高山 和幸 (昭和62年4月27日)	仲野 丈 (昭和62年11月13日)	石橋 清美 (昭和59年3月27日)	井口 時彦 (昭和58年5月22日)	秦 玉彦 (昭和56年5月22日)
8 高山 和幸 (平成3年4月27日)	仲野 丈 (平成3年11月13日)	室井 百人 (平成2年8月1日)	井口 時彦 (昭和58年5月10日)	秦 玉彦 (昭和58年5月10日)
9 高山 和幸 (平成7年4月27日)	縄手 靖司 (平成7年7月7日)	縄手 靖司 (平成3年8月1日)	秦 玉彦 (昭和62年5月7日)	柴田 征一郎 (昭和62年5月7日)
10 高山 和幸 (平成11年4月27日)	添田 正豊 (平成11年7月7日)	太田 善胤 (平成7年7月7日)	秦 玉彦 (平成3年5月8日)	柴田 征一郎 (平成3年5月8日)
11		泉原 敏行 (平成11年7月7日)	柴田 征一郎 (平成7年5月9日)	添田 年孝 (平成7年5月9日)
12			柴田 征一郎 (平成11年5月7日)	仲野 和義 (平成11年5月7日)

ホタルが住む自然

かつては川のいたるところに生息していたホタルも、都市部ではその姿を見ることがほとんどなくなりました。町内には、ゲンジボタルの自然発生地がいくつか残っています。個体数は多くありませんが、夏の宵戸切川の上流などで観察されます。

平野部が町域の70%を占める遠賀町で、最高の眺望を誇るのが馬頭岳。虫生津新屋敷から千代丸を結ぶ約6キロのハイキングコースが整備され、展望台からは遠賀郡内全域、遠く玄界灘から英彦山、福智連山を望むことができます。



町内に多い地名

遠賀町内の地名には、地形や地質の特性を推測させるものが多いです。島津や鬼津、尾崎など海にまつわる地名もその一つです。湿地や沼田を意味する「牟田」や、河川敷を称する「浮洲」が多いのも、地形と地質に由来しています。たとえば別府区の上牟田や中牟田、内牟田、外牟田。上別府区の上中牟田、片牟田、浅木区の下浮洲、木守区にも下浮洲、上浮洲があります。また、町域の大部分が平野部であることから、虫生津、上別府、別府、鬼津の各区以外に「谷」のつく地名がまったくないのも特徴です。

そんななかで一風変わったのが「旧停」。これは明治23年に開設された九州鉄道・遠賀川駅が、同40年の国有化を機に拡張、現在地に移転し、旧停車場がそのまま地名として残ったものです。

遠賀の三大相撲



かつて水巻の河守神社、岡垣の高倉神社、遠賀町上別府区の高家天満宮に奉納された相撲は「遠賀の三大相撲」と呼ばれ、町内でも相撲が盛大に行われていたことがうかがえます。昭和45年頃までは、草相撲が「おくんち行事」として各神社で催されていました。今は、体力向上を目的とした子供相撲が主体になっています。

おいしいうなぎ鍋

うなぎ、というと「蒲焼き」が一般的ですが、遠賀では味噌を使った鍋料理として伝えられています。うなぎの腹を割き、ぶつ切りにして素焼きにします。

鍋に入れて味噌を溶き、チリと同じ要領でダイコン、ハクサイ、ネギなどの野菜を加え、グツグツ煮立ったらいただきます。あっさりしていて何杯でもおかわりできそうです。



ONGA
おもしろ

町章・町木・町花の由来



遠賀町の町章と町木、町花はいずれも町民の公募作品のなかから選ばれ、決定されたものです。町民の団結と融和を表現し、かぎらない町勢の躍進を象徴する町章は、遠賀町の「オ」を図案化したもの。昭和47年4月1日に策定されました。20周年の節目には町木・モクセイと町花・スイセンが決められました。モクセイは庭園木としても愛される常緑小高木。家庭や学校、公民館などの公共施設で植栽が進められ、独特の芳香を漂わせています。スイセンはヒガンバナ科の多年生草本で、原産は地中海沿岸。冬の寒さに耐え、11月～3月に花茎を出して開花します。気品あふれる清楚な姿が魅力です。



コラム・de

遠賀学

町内には、4世紀から7世紀にかけての古墳が100基ほど確認されています。なかでも島津・丸山古墳は4世紀前半から中期にかけて造られた、最も古い時期の前方後円墳とされ、墳丘の長さ57m、後円部の直径29m・高さは4mあります。一帯には他に円墳4基があり、これらを含め周辺部約3万㎡は歴史自然公園として整備され公開されています。

平成4年度から発掘が続けられているのは豊前坊1号墳。5世紀前半頃に造られた前方後円墳で、丸山古墳と同じく当時の首長のもものとされます。墳丘長は80m。上部には1120年前後のものと見られる経塚があり、その配置形態から「弥勒信仰」がうかがえる貴重なものです。

町内には民間の研究会も2つ。それぞれ活発な調査・研究を続けており、意識の高さがうかがえます。

古墳がいっぱい

遠賀町の由来

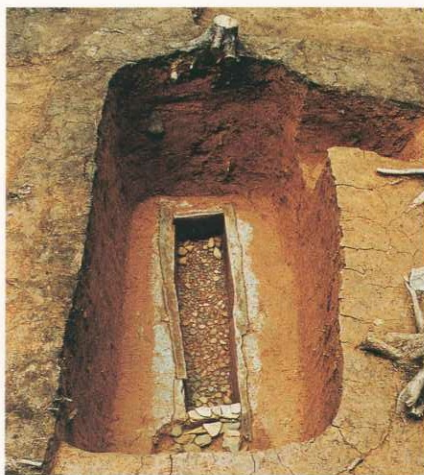
現在の「遠賀」に通じる地名は、古く「日本書記」に「岡県・岡水門」とあり、また『万葉集』にも「水茎の岡の水門」が詠まれています。これらはいずれも芦屋町付近と推定されており、芦屋町には岡湊神社(旧県社)があります。

これらの「岡」が奈良時代の和銅6年から「平加」「塙餉」「遠賀」と2文字で表されるようになり、次第に「おか」「延喜式」には「ヨカ」と振る)から「おんが」と読み方に変化していきます。

(資料遠賀町誌)



経筒(豊前坊経塚)



豊前坊2号墳(箱式石棺)



福岡県遠賀町

発行／遠賀町

福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀513番地

TEL (093) 293-1234

FAX (093) 293-0806

平成6年5月 初版発行／平成14年3月 改訂版発行